

## 総合的な学習の時間部会

研究主題 確かな自己評価能力を身に付けるための「総合的な学習の時間」の在り方

### I 主題設定の理由

「総合的な学習の時間」のねらいは、

- 【1】 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
  - 【2】 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすること。
- とされている。

このねらいを達成させるためには、生徒一人一人が受動的な学習ではなく、能動的な学習を実践すること、また能動的、主体的な学習への取り組みを通して、学び方やものの考え方の深化を図り、自己の在り方生き方を考える資質・能力の向上を図ることが必要である。

そのためには、学習と評価の一体化が図られるような「評価の在り方」が重要なポイントになる。とりわけ生徒一人一人による「自己評価能力」がその鍵を握る。これは、自ら考え、主体的に判断すること、自己の在り方生き方を考えることを実践するためには、「自己評価能力」を身に付けることが必要不可欠だからである。

また平成16年度から、すべての都立高等学校において「生徒による授業評価」が実施される。この取り組みを、より効果的なものにするためには、「生徒が授業者（教師）の授業の評価を行う」という側面と「生徒自らが学習活動への取り組み状況に関する自己評価を行う」という側面の二つがあるとされている。すなわち「生徒による授業評価」の実施によって期待されている効果を得るためにも、生徒の自己評価能力の向上がそのキーポイントになるといえよう。

さらに「自己評価」や「生徒による授業評価」を通じ、生徒は「評価する側」の立場を経験することで、評価に対する客観的な見方を身に付けることができると同時に、学習と評価の一体化も図ることができる。

以上の観点から自己評価能力を身に付けることが「総合的な学習の時間」における学習を、より効果的なものにするできるとともに、それが他教科・科目の学習においても波及的な効果が期待できると考え、上記の研究主題を設定した。

### II 自己評価能力の向上の必要性

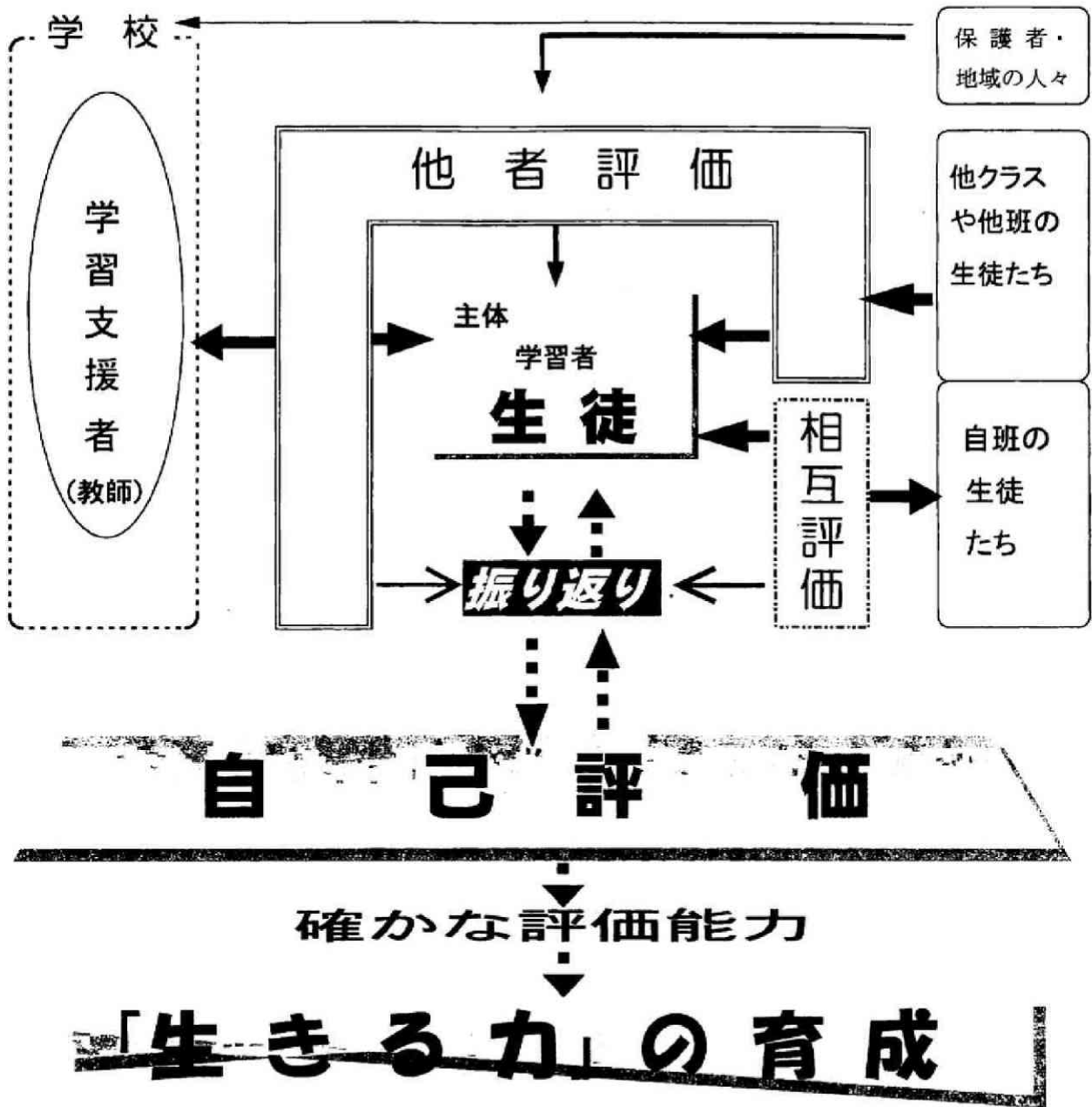
#### 1 学習活動における評価の方法（種類）

評価の方法・種類は、

- ◆ 教師(支援者)による評価
- ◆ 生徒(学習者)による授業評価
- ◆ 生徒(学習者)による相互評価・他者評価
- ◆ 生徒(学習者)による自己評価

が中心となると考えられる。

## 2 各評価の相関関係及び自己評価の課題とその解決策



生徒（学習者）と教師（支援者）の間、及び生徒同士の間では、評価は双方向性をもちやすいが、自己評価は一個人の中で完結されてしまう可能性が高いため、主観的になりがちで、客観性・信頼性に欠ける。

しかし、「総合的な学習の時間」のねらいを実践するには、自己評価の実施は不可欠である。「生徒が自ら課題を見付けること」が「総合的な学習の時間」のねらいを達成するための出発点であり、この点が「総合的な学習の時間」の目標を達成できるか否かのポイントである。

そこで自己評価の抱える課題を解決する方策の一つとして、生徒の自己評価と、生徒同士の相互評価、生徒・教師らによる他者評価を併用し、評価能力の向上を図る必要がある。これらの評価活動によって、確かな評価能力を身に付けることは、生徒自身の生きる力を育成することになる。

また、評価能力の向上は評価のための評価ではなく、生徒にとっては「学習に生かされる評価」、また教師にとっては「指導に生かす評価」、これらの活動を通じて「学習と評価の一体化」が図られる。

### 3 生徒（学習者）の自己評価の必要性

◆生徒の自己評価:学習活動に対する自己の姿勢を省みるための資料である。



#### 自己評価

⇒ 学習活動を振り返り、関わり方を吟味・評価する契機

《例》「学習の目的や内容が理解できているか」

「取り組む姿勢の中で反省すべき点はどこか」

「学習の成果として得られたものは何か」

等の質問項目が挙げられる。



#### 意欲の 醸成

学習目標の再設定・学習活動の修正

自己認識を深めることを通して、自己学習力を育成する意欲



#### 主体的に

学習に取り組む姿勢を図る ← 「総合的な学習の時間」のねらい

- ① 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考える力(問題解決能力の伸長)
- ② 学び方や調べ方、ものの考え方を身に付けること(学習過程における技能、思考力の育成)

#### 確かな学力

知識や技能はもちろんのこと、その上に学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力等まで含めたもの



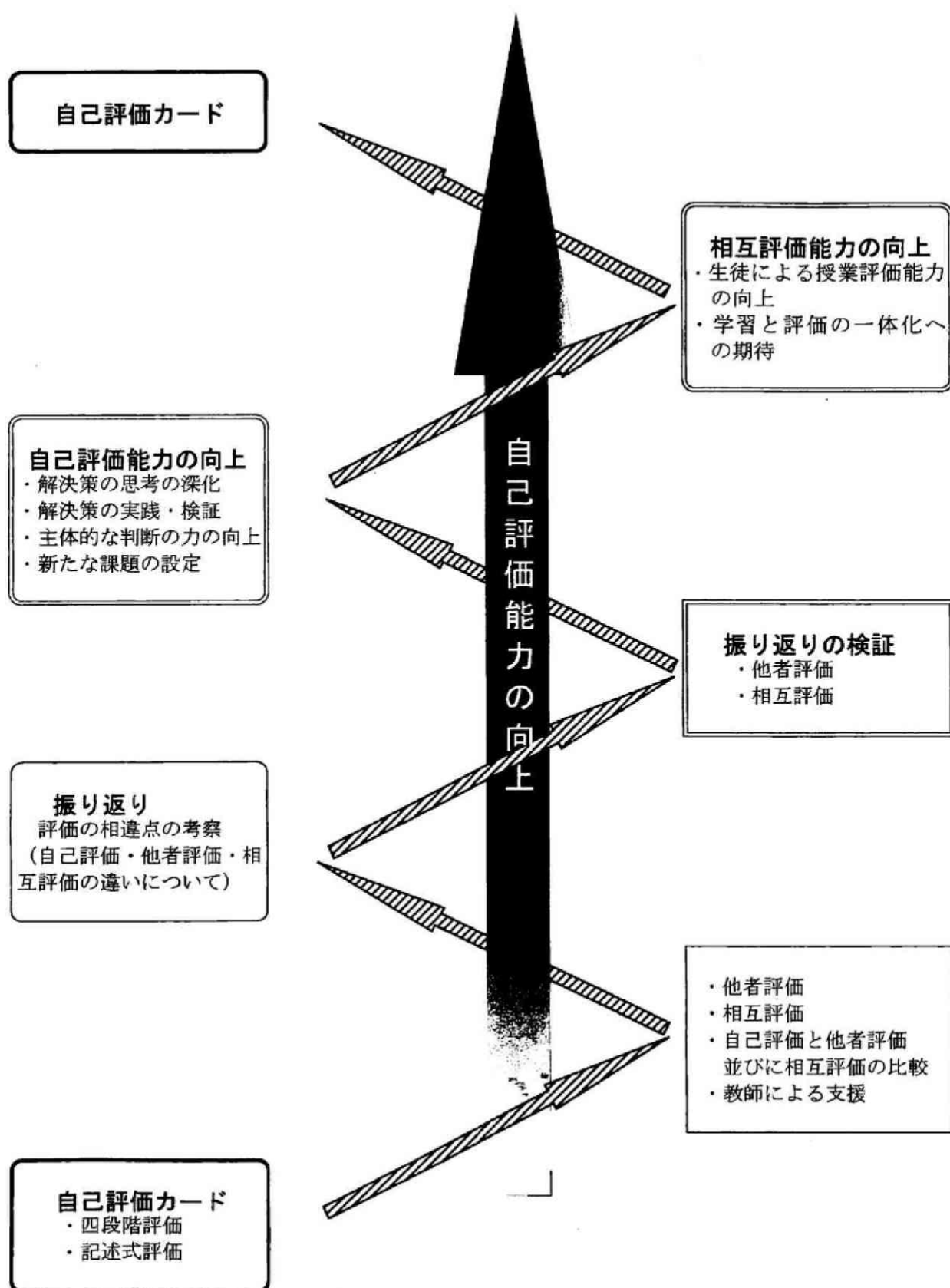
# 生きる力

- ★ 確かな学力
- ★ 豊かな人間性  
(自らを律し、他人と協調し、思いやりの心や感動する心)
- ★ たくましく生きるための健康や体力



「生き方・在り方」についての考察力の深化

#### 4 自己評価能力を身に付ける「総合的な学習の時間」の展開イメージ図



「総合的な学習の時間」における自己評価のための質問項目例

観 点	目 標	質 問 項 目 例
関 心	興味・関心	◆学習に対して積極的に取り組もうとしましたか。
		◆自分が成長していくために必要な学習という意識をもてましたか。
		◆自分の興味や関心がそそられる学習でしたか。
意 欲	実行力 積極性 創造性	◆主体的に意欲をもって学習を進めようと心がけましたか。
		◆苦手（消極的）な学習にも粘り強く取り組みましたか。
		◆支援やアドバイスを得るための働きかけをしましたか。
		◆問題点を整理し、修正を加えながら取り組みましたか。
態 度	指導力・コミュニケーション能力・協 調性・社会性 ・達成感	◆学習の際、他者（班内の友人等）との協力はできましたか。
		◆自分の役割分担は果たせましたか。
		◆相手の立場に立って行動（学習）できましたか。
		◆自分の学習の支援をしてくれた人に対し感謝しましたか。
		◆学習を終えて充実感（達成感）をもてましたか。
思 考	課題設定力 企画力 課題解決力	◆なぜこの学習（課題）に取り組むのか目的が分かりましたか。
		◆自分の周りや体験から、学習したい課題を見付けられましたか。
		◆先の見通しをつけて、学習の計画をしていますか。
		◆学習中、苦労した点や工夫した点・アイデアを挙げてください。
		◆苦労した点は、どのように解決しましたか。
判 断	情報活用力 価値判断力 評価活用力 相互評価力 自己評価力	◆収集した情報量に不足はありませんでしたか。
		◆収集した情報を適切に選択し、分析することができましたか。
		◆得られた知識・経験・技能をどのように生かしていきますか。
		◆生徒間の意見交換や相互評価に積極的に取り組みましたか。
		◆学習を通して、さらに調べてみたい課題が見付かりましたか。
		◆相互評価を通じて自分の学習の在り方を深く考えられましたか。
		◆他者評価を通じて自分の学習の在り方を深く考えられましたか。
		◆自己評価は適切に行うことができましたか。
技 能	情報収集力・ 実験/観察力	◆情報収集の際に、目的に応じて何か工夫をしましたか。
		◆自分独自の情報収集手段・方法がありましたか。
		◆実際に（実験等で）確かめてみましたか。
		◆分析や観察等によって予想をして検証してみましたか。
表 現	整理力 発表力 討論力 独創性	◆学習のプロセスを整理して、筋道を立ててまとめましたか。
		◆必要に応じて機器等を使い、適切に発表することができましたか。
		◆討論等に積極的に関わり、自分の考えを適切に述べられましたか。
		◆自分なりの意見（主張）をまとめることができましたか。
知 識 理 解	知識の獲得 理解の深化	◆今回の学習で得られた（重要と感じた）ことは何ですか。
		◆プロセスの中で気付いた、身に付けるべき能力・知識は何ですか。
		◆学習の目的について理解を深めることができましたか。
生きる力	自分の生き方 を考える態度	◆学習を振り返り、自分に自信がもてるようになりましたか。
		◆学習を通してこれからの自分について考えられるようになりましたか。
		◆自己実現への努力をしようと考えられるようになりましたか。

©この表は、平成14年度研究開発委員会資料集145ページ表1「総合的な学習の時間における評価の全体構成(例)」の「観点」をもとに作成したものである。



### Ⅲ 確かな自己評価能力を身に付けることを目的とした評価の実践例

ここで紹介する実践校では、「将来の自己の在り方生き方」を学習していくことをテーマとし、年間授業計画の中に「ライフプランを作ってみよう（6時限）」、「諸検査を通して自己理解を深めよう（6時限）」、「社会人へ取材しよう（11時限）」、「自分の尊敬する人の生き方調べ（7時限）」、「新聞記事を読み論文を書こう（5時限）」等の学習場面を設定して、「総合的な学習の時間」を1学年で1単位実施している。

ここでは、「社会人へ取材しよう」という学習を通して、学習場面ごとに生徒が自己評価をし、相互評価・他者評価と連動させながら自分の取り組みの良い点と課題を認識して、それを次の取り組みにいかせるような自己評価の実践例を挙げる。

企業・事業所訪問は、教師側が企業へのアポイントメントや、生徒への事前指導並びに事後処理を行う形式のものはこれまでも行われてきたところである。これを「総合的な学習の時間」で取り上げ、将来の職業のことを考えて企業・事業所を選択し、どの様にアプローチしていくのか、見学に際しては何に注意を払えばよいのか、訪問終了後はどの様な後処理が必要なのか等を、生徒自らが主体的に学習を計画・実践していく。

#### 1 評価の観点表

「総合的な学習の時間」を実践していく上での実施校の教育目標・ねらいは以下に示す「評価の観点表」のとおりである。

評価の観点					
目標	自己の在り方や生き方を考えることができるよう自己理解を深め、主体的・創造的に課題に取り組む意志をもち、行動する態度を育てる。				
領域	観点	評価基準 (ねらい・目標)	評価項目	評価規準 (学習場面での具体例)	※
情意領域	関心	課題の目的・目標を把握し新たな課題を見付けようとする。	興味・関心	説明を聞きながら、課題の目的・目標を意識し、モチベーションを高めることができる。	1
			課題発見力	新しい課題を探ることができる。	2
	意欲	問題解決や探求活動など主体的・創造的に取り組んでいる。	実行力	課題に対し真面目に取り組んでいる。	3
			積極性	課題の取り組みに当たって積極性が見られる。	4
			創造力	課題を取り組むに当たって、より良くしようと工夫している。	5
	態度	学習を通じて、自分を取り巻く他者や環境への思いやりが深まると同時に、人との適切な接触の仕方、社会性が養われる。	指導力	班行動に対してリーダーシップを発揮できる。	6
			協調性	班行動に対して、協力関係をもてる。	7
			コミュニケーション能力	学習を通じて、生徒理解・援助者・家族など他者との関係を深めることができる。	8
			共通理解	相手の立場に立った行動ができる。	9
			社会性	学習を通して社会的なルールやモラルを養うことができる。	10
知力領域	思考	自ら学習課題を発見し、その課題を検討し、見通しを立て、より良く課題を解決できる。	課題設定力	自分自身の体験などから課題を設定できる。	11
			企画力	計画的に行動できる。	12
			課題解決力	課題解決にあたり、様々な過程を踏まえ解決しようとする事ができる。	13
	判断	学習の過程で習得した知識や能力を応用し、様々な見方や考え方を活用できる。	課題活用能力	得られた情報の中から有用な情報を取捨選択できる。	14
			自己評価力	取り組んだ課題に対して、自分の取った行動・態度・結論を客観的にとらえることができる。	15
			他者評価力	他者の取り組んだ課題に対して、長所や改善点を見付けることができる。	16
技能領域	表現	情報の収集の方法や観察・実験の技法を身に付けている。	情報収集力	インターネットや図書館・インタビュー等の調査ができる。	17
			整理力	学習の過程をファイルにまとめる。	18
	表現	学習の過程で得られたことを自らの言葉で表現できる。	発表力	自分の意見や考えを発表できる。	19
			討論力	課題に対し協同作業者と討論できる。	20
			独創性	単に得られた情報・技術のまとめではなく、独自の工夫や発見が盛り込まれている。	21
認知理解領域	課題についての知識・技術を身に付けている。	知識の深化	知識力	学習の過程で新たな知識を得ている。	22
			技術力	学習の過程で新たな技術を得ている。	23
		理解の深化	課題の意義や課題の抱える問題点を理解している。	24	

## 2 「社会人へ取材しよう」における学習のねらい

- ア 企業・事業所訪問を通して、様々な仕事を詳しく知ることにより、視野を広げるとともに職業観を育成する。
- イ 電話での申し込みからお礼の手紙まで自ら主体的に行動することにより、社会的なルールやモラルを養い、他者との関係を深める。
- ウ 班の仲間と協同して取材内容をまとめ、発表することにより、協調性や発表力を養う。
- エ 自己評価・相互評価や他者評価の中から、自分を見つめる力を養う。

## 3 学習内容「社会人へ取材しよう」

時期	学習時間	学習場面	生徒の活動
7月	2時間	ガイダンス 班づくりと役割分担決定 会社の選択と取材内容 や質問項目の検討 電話での申し込み	課題の内容・目的を理解する。 班をつくり、役割分担を決める。 訪問する企業・事業所を決め、取材内容と質問項目を決める。 電話の台本を作成し、電話の練習をする。 電話で訪問を申し込む。
夏休み	3時間	事業所訪問 礼状の手紙作成	班ごとに事業所訪問と、見学、説明を受け、インタビューをする。 場合によっては体験させてもらう。 お礼の手紙を書く。
9月	2時間	取材報告書作成	取材した内容を基に取材報告書を作成する。発表台本を作成する。
10月	2時間	班別発表	班ごとに発表する。
	2時間	学年発表	各クラスから優秀班を選出し、学年集会で発表する。

## 4 評価カード

学習を展開していく中で、学習課程で計画されたことや実践したことに対する評価を行う。この評価を行う際に教師は、評価の観点表より評価項目や評価方法を設定する。自己評価に他者評価や相互評価を取り入れて客観性をもたせることにより、自己評価能力をより確かなものにできると考えられる。確かな自己評価能力を身に付けることは、自分自身の学びの過程を確認しながら、次の学びの目標を明確にするプロセスとしてぜひとも必要である。そして、自己評価能力を育成していくことで、様々な課題解決に際して課題の大きさを客観的に判断することや、問題解決までに必要な計画を立てること、及び目標達成のための努力の度合いを把握することなどが身に付けられていくものと考えられる。

確かな自己評価能力を高めることをねらいとして、先に示した観点表より「自己評価カード」並びに「グループ内相互評価カード」・「他者評価カード」を作成した。

総合的な学習の時間・相互評価カード		年 組 番 氏名							
テーマ「社会人へ取材しよう」		学習内容	事前準備	企業事前連絡	企業訪問	取材報告書作成	発表会	全体発表会	全体を通して
〈観点別評価の自己評価〉									
観点	※	評価規準	7月15日	7月18日	夏休み	9月3日	9月10日	10月8日	10月15日
関心	1	説明を聞き、課題の目的・目標を意識して臨めましたか。							
意欲	3	この時間まじめに取り組めましたか。							
意欲	4	この時間積極的に取り組めましたか。							
態度	7	班行動中、仲間と協同して作業できましたか。							
思考	12	自分で立てた計画通りに行動ができましたか。							
判断	15	課題を通して自分の生き方の参考になるように考えましたか。							
技能	17	目的地において得るべき情報を獲得することができましたか。							
表現	18	活動内容をきちんと報告書にまとめることができましたか。							
知識	22	今日の学習の中で新たな知識を得ましたか。							
評価		4:大変良くできた 3:良くできた 2:あまり良くできなかった 1:できなかった							

〈各実施日の計画並びにまとめ(自己評価)〉			
	次回の計画(内容)・ 目標	自己評価 (新たにできたこと・理解したこと・改善点)	担当者コメント
7/15			
7/18			
全体を通して			

総合的な学習の時間・相互評価カード テーマ「社会人へ取材しよう」		年	組	番	氏名					
※ 観点別評価の相互評価		学習内容	事前準備	企業事前連絡	企業訪問	訪問報告書作成	訪問報告書作成	発表会	全体発表会	全体を通して
		月	7 / 15	7 / 18	夏休み	9 / 3	9 / 10	10 / 8	10 / 15	
観点	※	評価規準								
意欲	3	この時間まじめに取り組んでいましたか。								
意欲	4	この時間積極的に取り組んでいましたか。								
態度	7	班行動中、仲間と協同して作業できていましたか。								
技能	17	目的地において得るべき情報を獲得できていましたか。								
表現	18	活動内容をきちんと報告書にまとめていましたか。								
		評価者								
評価		4:大変良くできた 3:良くできた 2:あまり良くできなかった 1:できなかった								

総合的な学習の時間・発表評価カード(他者評価カード) テーマ「社会人へ取材しよう」		年	組	番	氏名
発表した生徒氏名(班員連記)					
取材した会社名					
※ 観点別評価の他者評価		大変良くできた	良くできた	あまり良くできなかった	できなかった
1	まじめに発表していましたか。	4	3	2	1
2	発表は、分かりやすかったですか。	4	3	2	1
3	聞き手に理解しやすいような工夫をしていたと思いますか。	4	3	2	1
4	総合的に頑張っていたと思いますか。	4	3	2	1
5 よくできていると思えたのは何ですか					
6 もう少し工夫してほしいところは何ですか。					



## 5 評価の実際

学習ごとに自己評価と同じグループ内の生徒同士による相互評価を行う。自己評価は、観点別に質問項目を設け、また学習ごとの変化が分かるように時系列をつくり、それぞれの達成度を四段階表示で回答する。また、教師のコメントを記述する欄を設け、学習時間が終わるごとにアドバイスを行うことで、次の学習につながるようにする。

相互評価は、自己評価カードの裏に相互評価カードを印刷し、自己評価が終わった後、グループ内でカードを振り分け、自己評価と同様の質問内容でそれぞれの達成度を四段階表示で回答する。

発表の際は、別のグループの生徒による他者評価を行い、観点別の質問項目に対しては四段階表示で記入し、そのグループのよい点と改善すべき点については文章で記入する。

## 6 ねらいが達成できた事例

- ① 自己評価の初期段階では低い自己評価点を付けていた生徒が、学習が進むにつれて、学習時間ごとに目標をもって取り組み、コメント欄にも「頑張った」と記述して、高い自己評価をするようになり、取り組みへの意欲・態度を深めることができた。
- ② 自己評価カードの記述欄に毎回達成できたこと、できなかったことを記入した結果、最後の報告書作成や発表に対して意欲的に取り組む生徒がでてきた。
- ③ オール2やオール4の評価をしていた生徒が、自己評価カードと相互評価カードを比較することによって、観点別に違った評価をするようになり、自己評価の客観性を高めることができ、改善すべき点を意識しながら取り組めるようになった。

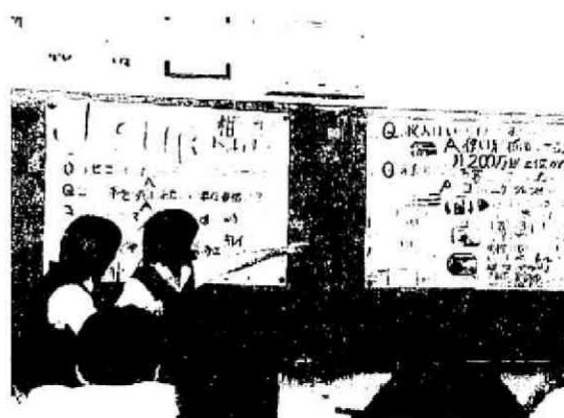
## 7 まとめと課題

生徒は、時系列による評価の変化を見たり、他者からの評価と自己評価を比べたりしながら、自己評価の客観性を高め、自分の成長やよい点や今後の課題、目標を知ることができる。

例えば、「積極的に取り組んだか」の質問に対して、自己評価では「2」だが、他者からの評価では「4」であった生徒には、他者評価を見た感想を求めると教師がアドバイスをして、評価の隔たりの原因を認識させ、次回からの評価の客観性を高める。また、「課題の目的・目標を意識して臨んだか」の質問に対して、毎回低い評価点を付けている生徒には、目標と達成内容を意識的に記述欄に書かせることで取り組みを改善させる。

ここで大切なことは、評価結果にのみ注目させるのではなく、それを今後の学習の取り組みに生かすよう導くことである。評価結果に応じて今後の目標を立てさせ、それがどの程度達成されたのかを自己評価や相互評価、また教師のコメントから検証させることで、評価が生きたものになる。

そのために教師は、自己評価をする際の評価規準を明確にすること、生徒が評価する際の問題点を把握し、その支援改善策を創意工夫することが必要である。教師は生徒の各項目に対する回答から、援助すべき具体的内容を把握しながら支援の改善を行い、今後の評価の観点の補強や修正をしていかなければならない。



## IV 研究のまとめと課題

### 1 まとめ

本研究では、確かな自己評価能力を向上させることの意義を次のようにとらえた。

生徒一人一人が自己の現時点での資質・能力や生き方等を客観的に評価する能力を高めることによって自己の課題が明確になり、さらにその課題克服の努力が資質・能力それ自体の向上につながる。

そこで、実際の「総合的な学習の時間」において、この自己評価能力の向上を図るための手だてとして、学習段階や評価場面に応じて「自己評価カード」、「生徒同士の相互評価カード」、「他者評価カード」の三種の形態のカードのねらいと目的を検討し、実証授業を通じて、効果面の検証を実施した。

この一連の研究過程で次のような成果を得ることができた。

- (1) 自己評価カードの評価項目については、その観点が重複することなく多種にわたるよう精査し、数値による評価がふさわしい項目と、記述による自己評価がふさわしい項目とに分ける基準を設けることができた。記述の部分では改善点や次回の目標設定を盛り込んでおり、次回の学習活動での課題意識を生み出すことができた。
- (2) 自己評価カードのみならず、生徒同士の相互評価カード及び他者評価カードのフォーマットも作成した。実証授業ではこれらを活用し、評価の有効性を明らかにすることができた。  
すなわち、これら三種の形態のカードによる評価を活動の前後に組み合わせたことにより、自己評価能力が回を重ねるごとに確実に高まる図式が構築された。

実証授業の生徒の企業・事業所訪問という内容が、生徒の能力の向上と自己評価能力の向上を目指す上では、有効な教材であった。

### 2 課題

本研究を通して今後課題となる点は以下のとおりである。

○自己評価と相互評価・他者評価の関わり合いやバランスは、常に工夫と改善が必要であること。

○各学校の実態にあわせた評価の観点や方法などで、評価の在り方についても見直し作業を継続的に行っていくなくてはならないこと。

いずれもすぐに解決できる課題ではないが、今後の各学校における「総合的な学習の時間」の取り組みを踏まえて、継続的に評価の在り方について研究を進めていく必要がある。

また、中学校での「総合的な学習の時間」の取り組み及び、学習と評価の一体化等に関する連携についても考察していくことも必要である。